月　日　名前　　／50点

【答え】

【中2】国語 文章テスト　説明文 1/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

テストで間違えた問題を、あなたはどうしているだろうか。赤ペンで正しい答えを書き写し、それで終わりにしている人が多いかもしれない。しかし、それでは同じ間違いをまたくり返しやすい。

人は失敗をすると、早く忘れたいと思う。恥ずかしいし、思い出すと気分が悪くなるからだ。けれども、忘れてしまった失敗からは何も学べない。だから私は、失敗を一冊のノートに書き残すことをすすめたい。名づけるなら、「失敗ノート」である。

書き方には、こつがある。まず、何を間違えたかだけでなく、なぜ間違えたかを書く。「計算ミス」と書くだけでは足りない。「急いで、繰り上がりを書かなかった」のように、そのときの自分の行動まで書く。原因が行動の言葉で書かれていれば、次にどうすればよいかが自然に見えてくる。

次に、自分を責める言葉は書かない。「なんてだめなんだ」と書いても、次の行動は何も変わらない。ノートに残すのは、反省ではなく記録である。事実だけを、ほかの人の失敗を調べるように、少し離れた目で書くとよい。

こうして書きためていくと、やがて気づくことがある。失敗の原因は、思っていたほど多くの種類がないのだ。同じ急ぎ方、同じ思いこみが、形を変えて何度も顔を出している。それが分かれば、気をつける場所は数か所にしぼられる。

失敗は、うまくいかなかったという結果であると同時に、自分の弱点を教えてくれる地図でもある。その地図を持っている人は、次に同じ道で迷わない。失敗ノートは、自分だけの地図帳なのである。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　筆者は、赤ペンで正しい答えを書き写すだけで終わりにすると、どうなると述べていますか。本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

同	じ	間	違	い	を	ま	た	く	り	返	し	や	す	い					

問二（十点）　「原因が行動の言葉で書かれていれば」とありますが、「行動の言葉」で原因を書いた例として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　計算ミスをした。
イ　自分は数学が苦手だ。
ウ　問題文を最後まで読まずに答えを書いた。
エ　今日は調子が悪かった。

ウ

問三（十点）　筆者は、失敗ノートに残すのは何だと述べていますか。「反省ではなく」に続く言葉を、本文中から二字で抜き出しなさい。

記録

問四（十点）　「気をつける場所は数か所にしぼられる」とありますが、それはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

失	敗	の	原	因	は	種	類	が	少	な	く	、	同	じ	急	ぎ	方	や	思
い	こ	み	が	く	り	返	さ	れ	て	い	る	と	分	か	る	か	ら	。	

問五（十点）　筆者が失敗を「地図」にたとえた理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　失敗の数が多いほど、地図のように大きくなるから。
イ　失敗は自分の弱点を教えてくれ、次に同じところで迷わないようにしてくれるから。
ウ　地図のように、ほかの人と見せ合うことができるから。
エ　失敗した場所を覚えておけば、そこに近づかなくてすむから。

イ

月　日　名前　　／50点　　合計　／100点【答え】

【中2】国語 文章テスト　物語文 2/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

母が仕事で朝早く家を出るようになって、弁当は父が作ることになった。最初の日、弁当のふたを開けると、ごはんの上に、黒くこげた卵焼きがのっていた。

「うわ、なにそれ。」

隣の席の健太が笑った。私はあわててふたを閉めた。顔が熱くなった。その日、私は卵焼きを残して、弁当箱を持って帰った。

台所で弁当箱を洗おうとしていた父は、残った卵焼きを見て、何も言わなかった。ただ、少しだけ眉が下がった。

次の日も、その次の日も、卵焼きは入っていた。二日目は形がくずれていて、三日目は甘すぎた。私は、父に言おうと思った。卵焼きはいらないから、と。けれども、朝、台所に行くと、父は流しの前で、フライパンを片手に、スマホの画面をにらんでいた。画面には、卵焼きの作り方の動画が映っていた。

「おはよう。」父は画面から目を離さずに言った。「今日はいけると思う。」

私は、言おうとしていた言葉を飲みこんだ。

昼休み、ふたを開けると、黄色い卵焼きがきちんと三切れならんでいた。一切れ食べると、少しだけ塩が多かった。でも、ちゃんと卵焼きの味がした。

「今日のはふつうじゃん。」健太がのぞきこんで言った。

「ふつうじゃないよ。」私は答えた。「四日かかったんだから。」

健太は意味が分からないという顔をした。私はかまわずに、二切れ目を口に運んだ。

その夜、洗い終わった空の弁当箱を、父の前に置いた。父は弁当箱を持ち上げて、軽さを確かめるように少しふった。それから、何も言わずに、小さく笑った。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　最初の日の弁当に入っていたのは、どんな卵焼きでしたか。本文中から十字以内で抜き出しなさい。

黒くこげた卵焼き

問二（十点）　「少しだけ眉が下がった」とありますが、このときの父の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　私が卵焼きを残したことに気づき、がっかりしている。
イ　弁当箱が汚れていて、洗うのが面倒だと思っている。
ウ　私が卵焼きを好きではないと知って、ほっとしている。
エ　仕事で疲れていて、眠くなっている。

ア

問三（十点）　私が「言おうとしていた言葉を飲みこんだ」のは、父のどんな姿を見たからですか。「～姿」につながるように、本文中から二十五字以内で抜き出しなさい。

フライパンを片手に、スマホの画面をにらんでいた

問四（十点）　私が健太に「ふつうじゃないよ」「四日かかったんだから」と答えたとき、どんなことを思っていましたか。父の様子にふれて、五十字以内で説明しなさい。

父が失敗をくり返しながら動画で調べ、四日かけてやっと作れた卵焼きなので、特別なものだと思っていた。

問五（十点）　最後の段落の父の様子の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　弁当箱が重いので、まだ残っていると思い、がっかりしている。
イ　空の弁当箱の軽さで私が全部食べたと分かり、言葉にせずに喜んでいる。
ウ　弁当箱がこわれていないかを確かめている。
エ　明日から弁当を作らなくてよいと分かり、安心している。

イ

【中2】国語 文章テスト（100点）　説明文 1/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：同じ間違いをまたくり返しやすい

解説：第一段落の最後「それでは同じ間違いをまたくり返しやすい」が根拠。「それ」は、正しい答えを書き写して終わりにすることを指す。

問二（十点）　答え：ウ

解説：本文の例「急いで、繰り上がりを書かなかった」のように、そのときに自分がしたこと（しなかったこと）を書いたものがウ。アは本文で「足りない」とされた書き方。イ・エは行動ではなく気分や思いこみ。

問三（十点）　答え：記録

解説：第四段落の「ノートに残すのは、反省ではなく記録である」が根拠。自分を責める言葉ではなく、事実を書くということ。

問四（十点）　答えの例：失敗の原因は種類が少なく、同じ急ぎ方や思いこみがくり返されていると分かるから。

解説：第五段落が根拠。書きためると、原因が「同じ急ぎ方、同じ思いこみ」の数種類に集まっていると分かる。だから気をつける場所が少なくてすむ。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①失敗の原因の種類は多くない

②同じ急ぎ方や思いこみがくり返されている

問五（十点）　答え：イ

解説：最後の段落の「自分の弱点を教えてくれる地図」「次に同じ道で迷わない」が根拠。エは「近づかない」ことではなく「迷わない」ことを言っているので合わない。

【中2】国語 文章テスト（100点）　物語文 2/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：黒くこげた卵焼き

解説：第一段落の最後が根拠。この失敗から、四日目の「黄色い卵焼き」までの変化が物語の軸になっている。

問二（十点）　答え：ア

解説：直前の「残った卵焼きを見て、何も言わなかった」が根拠。言葉にしない残念な気持ちが、眉の動きに表れている。

問三（十点）　答え：フライパンを片手に、スマホの画面をにらんでいた　（父は流しの前で、フライパンを片手に、スマホの画面をにらんでいた でも正解）

解説：第五段落が根拠。父は卵焼きの作り方の動画を見ながら、うまく作ろうと努力していた。それを見て、「卵焼きはいらない」と言えなくなった。

問四（十点）　答えの例：父が失敗をくり返しながら動画で調べ、四日かけてやっと作れた卵焼きなので、特別なものだと思っていた。

解説：見た目は「ふつう」でも、私はこげた日・くずれた日・甘すぎた日と、動画を見る父の姿を知っている。その四日間の努力が、「ふつうじゃない」という言葉にこめられている。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①父が失敗しながらも調べて作り続けた（努力した）

②だから特別な卵焼きだと感じている

問五（十点）　答え：イ

解説：「空の弁当箱」「軽さを確かめるように」「小さく笑った」が根拠。第四段落の「何も言わなかった。ただ、少しだけ眉が下がった」と対になっている。